



「良書ご案内」

書籍名	万葉学者、墓をしまい、母を送る	著者名	上野 誠
出版社名	講談社文庫	発行年月	2022年8月

NHKの「100分de名著」、古代研究(折口信夫)を見ていたら、解説者の上野誠(国文学者、國學院大學教授)の語り口がとにかく面白く、本書を買い求めた。

上野は兄と13歳も離れており、家のことは関知せず、好きな文学と歴史を学ぶため文学部に進み、国学院で「万葉集」と民俗学を学び、大学院にも進むことができた。

気楽で、のんきで羨ましいほどの人生だ。家督を相続し、父母の老後を引き受け、家の祀りごとを引き受けていた頼りの兄(長男)が末期ガンになった。

すべてのことを押しつけていた兄から「俺が死んだら、おふくろのことは、おまえがせないかんたい。覚悟せないかんばい。」と突然迫られる。

兄が死に、母をだまして奈良に連れてきて、上野のこれまでの人生で最大のプロジェクトである「母親の看取り大作戦」を開始する。上野にはこの大作戦の前にして、確固たる哲学があった。「死にゆく者を見送るのは、人の人たる義務だ。しかし、送る人の生活の質を低下させることがあってはならない。親を看取る場合、子こそが幸福でなくてはならないとすら思っている。

この幸福こそ、親の希求する最大の幸福ではないのか。」

上野は万葉集と出会って40年以上の時間がたち、自然と頭の中が「万葉集」によって整理され、考え方も万葉的になっていた。ついに上野は、大作戦に成功し、勝利を収めた。

母は、故郷から離れた地で、7年間病院と施設を巡る旅を続け茶毘に付された。(2016年)

上野には好きな歌がある。

「この世にし 楽しくあらば 来む世には 虫にも鳥にも 我はなりなむ」大伴旅人の人生歌である。来世、そんなものは知らんさ、この世で楽しく生きられたら、来世で虫に生まれ変わっても鳥に生まれ変わっても知るものか。とにかく、この世で生きている間が大切なんだから楽しく生きなきゃ損だろう。上野はこの思想に後押しされて、母の介護の方針も葬儀の方針も決めた。

祖父の葬式(1973年)で、中学2年生の上野は祖母、母の3人で湯灌をした。上野は祖父を背負い、その冷たい肌の感触を知る。女たちが行うのがこの地(福岡県・甘木市)のしきたりだ。

葬儀は家族と親類を中心とした仮通夜、近隣の人を招く本通夜、告別式があり、その都度食事が提供される。近所の女性たちの助けをかりて数百食を用意する。

葬式は親類や縁者、近隣の人々による一大行事だった。

現在は小さなお葬式、家族葬が都会を中心に当たり前のよう一般化している。

上野は本書で死と墓をめぐる己の心性の歴史を、鍛え抜かれた古典学徒の思考で見事に描いている。

岩城

編集後記

2023年は識者や私たちの実感としても、転換点となる1年になるのではないだろうか？

1/4我が国の首相は「異次元の少子化対策」を突然表明し私たちを驚かせた。1/7アメリカの下院議長は15回投票でやっと決まった、1/26には米独がウクライナへの戦車の供与を発表など、既成概念が次々と壊されていく様を毎日目の当たりにする現状。もちろんウクライナの戦争は続いている。2月春闘では本格的に賃金アップが議論され、4月に日銀黒田体制が終わり、後任人事に注目が集まる。5月にはG7サミットが広島で開催される。

ふとした時に養老 孟司先生と飼猫まるの交流を思い出す、養老先生は「人間は人間の“好きに生きたい”という思いを猫に託している」と言う、大好きな虫の標本を作りながら、子供と同じ目線で話す、そんな人もいるのだと。

発行所：株式会社ライフデザイン研究所

所在地：〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サビ 2F

Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 編集人 伊藤

